

娘が交通事故に遭って感じること

39歳 女性

今年の11月のことです。同じ県内で暮らしている高校1年の娘から1本の電話がかかってきました。

娘は、中学校時代にやっていた部活動の成績が認められて、そのスポーツでは県内でも有数の強豪校に進学し、今は家族と離れて寮生活を送っています。

その娘からかかってきた電話は、娘が交通事故の被害にあったことを知らせるものでした。高校に進学して、やっと寮生活にも慣れ、大会でも結果が出始めた矢先の知らせに、いてもたってもいられず、家族で娘のところへ駆けつけました。

電話では、「怪我は大したことないよ。」と娘は言っていました。これほど心配したことはないというくらい不安な気持ちになり、娘の元気な姿を見たときは本当に涙が出そうでした。

娘から詳しく話を聞くと、買い物を終え自転車で寮に帰る途中、脇道から出てきた車とぶつかって転んでしまったということでした。

幸いにして娘の怪我は大したことではなく、ほっと胸をなで下ろしましたが、転んだ先は国道でしたので、「もし、他の車が走ってきていたら…」と考えるとぞっとしてしまいました。

私は、これまで交通事故に遭ったことはなく、身近な人にも事故に遭った人はいませんでしたので、今までは交通事故の被害に遭うということがどういうことか、正直考えたことはありませんでした。

子ども達に小さい頃から、「車に気を付けなさい。」と繰り返し言ってきましたが、今回、娘が交通事故の被害に遭って、本当に心から「気を付けて。」と言えるようになったと感じています。

ただ本当は、被害に遭ってから事故の怖さに気付いても遅いと思います。

今回の事故は、本当に運良く軽い怪我で済みましたが、これが大きな事故になっていなかったという保証はどこにもありません。

一歩間違えば、取り返しのつかないような事故になっていた可能性もありますし、そのようになってからでは遅いのです。

交通事故の被害に遭う危険性は、「本当に身近なところに潜んでいるんだな。」ということ、今回娘が事故に遭って初めて感じました。

今では、娘の怪我也癒え、また元のように元気に部活に励んでおり、冬の大会にも出場できるようになりました。

本当に大きな事故にならなくて良かったと家族で話しています。

私は、今回の娘の事故のことを手記に書かせていただきましたが、この手記を読んだ方に、交通事故の恐ろしさというものを少しでも知ってもらえたらと思います。